



JR高円寺駅と永福町を往復する「松ノ木線」の路線運行をセッション杉並経由とすることを求めることに関する陳情

(19 陳情第 33 号)

受理年月日	平成19年6月26日
陳情者	 

(要旨)

裏面のとおり

杉並区議会

陳情の趣旨

平成二十一年三月まで高円寺会館が建替えのため、地域住民が気軽に使用できるホールが高円寺地域にはありません。この改築期間中、高円寺会館にかわる区民の文化芸術活動や杉並の文化の発信拠点となるセシオン杉並が果たす役割と社会的需要の増大は、計り知れないものがあります。

しかし、JRからの最寄り駅である高円寺駅からはセシオン杉並までの交通手段がなく、特に高円寺北地域に在住する高齢者にとっては、利用しづらい状況にあります。

一方で平成十四年六月、区内交通の不便解消のため運行された、京王バスと関東バスによる永福町～松ノ木住宅～新高円寺駅～高円寺駅南口路線は、南北間交通の弱い杉並区において大変貴重な路線であり、通勤利用者を初め、地元住民にとっては、モビリティ確保という点においても、今では一日平均利用者数が千七百人にも上り、非常に地域としての利用頻度の高い交通機関であります。やはり高円寺駅からセシオン杉並に行くためには、新高円寺駅で下車し、そこから高齢者の足で10分以上も歩かなくてはならないのが現状であります。

そもそも松ノ木線は、民間事業者が自らの企業意思で開設する企業路線とは違い、民間事業者主導でありながらも、行政が地域住民の意見を取り入れ、これらの事業者に対してアプローチや施設整備を行い、深く関与してこそ運行することのできたバス路線であります。

以上のような現状を鑑み、現在の松ノ木線の路線を一部変更し、一時間に一本でもセシオン杉並を経由する路線として運行するよう働きかけ、高齢者に対する配慮や、地域住民が区の施設を利用する上での要望を考慮しながら、モビリティ確保を第一義に置いた総合的な交通政策を実現していかれることを要望いたします。